

1. ディプロマ・ポリシー

ディプロマ・ポリシー	
DP1	日本文化、比較文化のいずれかの専攻分野において、体系的知識を習得し活用することができる。
DP2	人文科学諸分野の研究方法を理解し、文化学、歴史学、文学、言語学、考古学、文化人類学のいずれかを軸に、学際的視野と高度な研究方法によって、自ら設定した課題について探究することができる。
DP3	国際的かつ学際的視野をもって各々の文化を捉え、現代社会におけるあり方を考察するとともに、グローバル社会における自らの役割を自覚し、実社会との関わりを踏まえて専門的な知を追究することができる。
DP4	専門とする分野の必要に応じて、日本語あるいは英語によって、専門的な内容を話し、聞き、書き、読むことができるとともに、社会の様々な場面において、異文化理解能力とコミュニケーション能力を発揮し、課題解決に貢献することができる。

2. アセスメント・ポリシー

#	アセスメント項目	アセスメント・プラン	対応するDP								責任主体	備考	
			DP1	DP2	DP3	DP4							
共通基礎アセスメント項目													
1	入学試験	入学定員充足率及び収容定員充足率によりアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	
2	GPA	GPA分布によりアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	
3	成績評価	成績分布及び単位修得率によりアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	
4	履修状況	履修登録率によりアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	
5	在学生調査	在学生意識調査の調査回答率及び各設問の肯定回答率によりアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	
6	海外プログラム/インター シップ/プロジェクト/ボラ ンティア/学会/課外活動等	各海外プログラム/インターシップ/プロジェクト/ボランティア/学会/課外活動等の参加者及び成果によりアセスメントを行 う。			○	○						研究科執行部	
7	地域活動	各地域活動等の参加者及び成果によりアセスメントを行う。			○	○						研究科執行部	
8	退学率/休学率	退学率及び休学率によりアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	
9	検定/資格（外部語学検定 試験含む）等	各種検定・資格の受験条件充足率、受験率、合格率等によりアセスメントを行う。											実施している専攻のみ対象
10	学位授与	学位授与数によりアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	
11	修了後の進路	就職率及び進学率によりアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	
12	修了時調査	修了時調査の調査回答率及び各設問の肯定回答率によりアセスメントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	
論文作成過程アセスメント項目													
13	研究計画書	研究テーマの適切さ、計画の遂行可能性、計画書の適切さについて指導教員を中心にアドバイスを行う。	○	○								研究科執行部	当該学生の主査が実施主体 となってアセスメントを行 う。
14	研究中間発表	研究テーマの独創性、問題設定の妥当性、先行研究の把握、他分野の研究との関連性、研究方法、実現可能性を主な指標として アセスメントを行う。	○	○								研究科執行部	当該学生の主査・副査が実 施主体となってアセスマン トを行う。
15	論文作成計画発表	論文の章立て、論述の流れの適切性、参考文献の把握と読解、調査の計画性を主な指標としてアセスメントを行う。	○	○								研究科執行部	当該学生の主査・副査が実 施主体となってアセスマン トを行う。
16	修士論文概要発表	参考文献、調査資料の妥当性、信頼性、分析考察の周到さ、論文作成能力の到達度、論文規模を主な指標としてアセスメントを 行う。	○	○	○	○						研究科執行部	当該学生の主査・副査が実 施主体となってアセスマン トを行う。
17	修士論文審査	テーマ設定、独自の考察の有無、研究の意義、論文の分量・体裁などを主な指標とし、修士論文、及び口述試験によってアセス メントを行う。	○	○	○	○						研究科執行部	当該学生の主査・副査が実 施主体となってアセスマン トを行う。

国際文化専攻修士（課程レベル）新旧DPマッピング表

◆新DPと旧DPの比較

新ディプロマ・ポリシー (2022年度入学生から適用)	
DP1	日本文化、比較文化のいずれかの専攻分野において、体系的知識を習得し活用することができる。
DP2	人文科学諸分野の研究方法を理解し、文化学、歴史学、文学、言語学、考古学、文化人類学のいずれかを軸に、学際的視野と高度な研究方法によって、自ら設定した課題について探究することができる。
DP3	国際的かつ学際的視野をもって各々の文化を捉え、現代社会におけるあり方を考察するとともに、グローバル社会における自らの役割を自覚し、実社会との関わりを踏まえて専門的な知を追究することができる。
DP4	専門とする分野の必要に応じて、日本語あるいは英語によって、専門的な内容を話し、聞き、書き、読むことができるとともに、社会の様々な場面において、異文化理解能力とコミュニケーション能力を発揮し、課題解決に貢献することができる。

旧ディプロマ・ポリシー (2021年度入学生まで適用)	
DP1	「日本文化」「比較文化」のいずれかの専攻分野において、幅広い、高度の体系的知識を有している。
DP2	人文科学諸分野の研究方法を理解している。
DP3	文化学・歴史学・文学・言語学・考古学・民族学のいずれかを軸に、学際的視野と高度な研究方法によって、自ら設定した課題について探究することができる。
DP4	専門分野・領域の必要に応じて、日本語あるいは英語によって、専門的な内容を話し、聞き、書き、読むことができる。
DP5	国際的かつ学際的視野をもって各々の文化をとらえ、現代社会におけるありかたを考察しようとしている。
DP6	グローバル社会における自らの役割を自覚し、専門的な知を実社会とのかかわりで考えようとしている。
DP7	社会の様々な場面において、高度な異文化理解能力とコミュニケーション能力を発揮し、課題解決に貢献することができる。
DP8	本課程に原則として2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、本学学位規程に定める修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

◆新DPと旧DPのマッピング

新DP	旧DP									
DP1	<u>DP1</u>									
DP2	<u>DP2</u>	<u>DP3</u>								
DP3	<u>DP5</u>	<u>DP6</u>								
DP4	<u>DP4</u>	<u>DP7</u>								

備考